令和2年度　介護の日
作文・写真コンクール作品集

茨城県老人福祉施設協議会長賞
清水　章央（いくり苑）
「コロナに負けるなお祭りワッショイ!!」

茨城県知事賞
高橋　奈美子（玉樹）**「こんなの掘れたよ！」**

茨城県介護福祉士会長賞
石塚　洋美（愛和苑）
「仲良しこよし子～みんなの笑顔～」

審査委員長賞
阿部　太之（成華園）**「なかよし」**

審査委員長賞
渡辺　邦枝（成華園　多賀デイ）**「さくらの木の下で」**

広報委員長賞
齋藤　美絵（峰林荘）**「新生活様式?!」**

特別賞
猪瀬　聡子（じゅげむ）「優しい眼差し」

宮田　祐一郎（いくり苑那珂　短期入所）
「今日も仲良し凸凹コンビ」

はじめに

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」（十一月十一日）の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、「介護の日」作文コンクールを実施しており、今年度で十二回目となります。

今年度はコロナ禍の下での作文コンクールということで、作品の応募数が大きく減少してしまうことが懸念されましたが、皆様から三百四十八作品もの多くの御応募をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会長賞、茨城県介護福祉士会長賞の各二作品の合計十二作品を選定いたしましたので、ここに受賞作品を御紹介します。

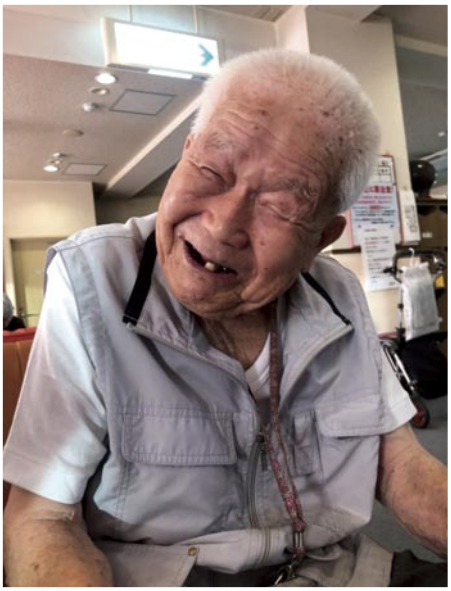
また、第十二回目を迎えました写真コンクールは、特別養護老人ホーム等の介護施設・事業所で働いている介護職員などから、福祉・介護現場の感動、感激、喜びを伝える心温まる作品を募集して、応募された百四十一作品の中から、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会長賞等に選定いたしました受賞作品を掲載しています。

目　次

川野辺　花音「祖母のハンバーグ」……1
鈴木　良明「入居者様が百寿を迎えて」……2
津久井海遥「介護と曾祖母と私」……3
小池　太市「いつも救われていたのは」……4
青柳　美慧「姉なりの介護」……5
小堀　幸子「色鉛筆の空」……6
チャンティーホンガー
「日本の介護を学んで」……7
インターサー サオワラック
「介護について考えたこと」……8
金沢つぼみ「介護に関するエピソード」……9
吉田　幸子「バトンタッチする日まで」……10
中根　咲希「私と介護とその未来」……11
四家　慎一「ウィズコロナを見据えた介護」12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み……13
茨城県社会福祉協議会の取り組み……14
茨城県理学療法士会の取り組み……15
茨城県介護福祉士会の取り組み……16

岩波　紗矢（ケアサポート田村）
「二人で長生きしましょうね」

小林　ひろみ（ケアステーション藤が原）
「とりあえずビールで！」



橋本　順子（ハートピア石岡）
「大爆笑。95 歳の夏」

荒　和則（新つくばホーム 新館）
「かわいいって？馬鹿言ってんじゃないよ！」

初見　あゆみ（みどりの里）
「夏祭り」

茨城県知事賞

祖母のハンバーグ

小瀬高等学校　3年生
川野辺（かわのべ）　花音（かのん）

私の祖母は認知症だ。そして、とてもしょっぱいハンバーグを作る天才である。それは決して手が込んでいるわけではないが、祖母独自の味つけで私は大好きだった。一緒に散歩をしたり編み物を教わったり、お風呂の小さな窓から月を眺めたり、祖母とはたくさんの思い出がある。しかし、そのたくさんの思い出はだんだん途切れ、次第に祖母の中から消えてしまった。不思議なことに悲しくはなかった。祖母が忘れてしまったなら私が覚えていれば良いと思ったからだ。

時が経つにつれ、祖母は私の名前も思い出せなくなっていった。数ある思い出を忘れられるより辛かった。痩せ細った腕を握りながら私は思った。一番辛いのは祖母本人ではないかと。たった数分前のことが思い出せなくなり、何年も前の記憶がまるで五分前であるかのように感じる。記憶障害をもたない私にとっては未知の世界だ。祖母には祖母が思う世界があって、私には私が思う世界がある。祖母が見ている景色や思いを上手く共有できていないから混乱する。同時に不安も生まれる。自分の世界の中の当たり前を押し付けてしまっては、症状は悪化する一方だ。

私にとって介護とは生きるための少しの手助けだと思う。しかし、それは簡単なことではない。高校の福祉コースでの授業（講義と演習）を通して学んだ。笑顔で「ありがとう」と言われることと、利用者さんの成長が見れることがやりがいだと職員の方が言っていた。大変な仕事もやりがいを見つけることが大切だと思った。

これから先、祖母のようになってしまう人はどれくらいいるだろうか。今まで起きたこと、思い出が消えてしまったら私は耐えられるだろうか。不安はたくさんあるが、一番はしっかり本人と向き合うことだ。手を取り、同じ歩幅で一歩一歩進んでいくことが大切だと思う。そして、私が祖母くらいの歳になったら孫としょっぱいハンバーグを作りたい。

木村　圭人（やすらぎの里）
「皆でつくったアマビエ !! コロナも退散デス」

茨城県知事賞

入居者様が百寿を迎えて

特別養護老人ホーム　いくり苑
鈴木（すずき）　良明（よしあき）

私は介護職として施設で働いて五年になります。コロナ感染と向き合いながら仕事をしていく状況に日々苦戦し、この状況でお年寄りは大丈夫だろうか。自分に何ができるだろうか毎日自問自答しています。

今回私の施設で百歳になるおばあちゃんがいます。大正生まれで笑顔が可愛らしく、時に話しかけると大声で返事をしてくれる元気な方です。ご利用者様とご家族様が一緒に百歳のお祝いをする為に職員で話し合いこの状況で、どうすれば良いかを考えました。感染予防の対策として、ソーシャルディスタンスを守り、密な接触を避ける為に透明なアクリルボードの設置などを考え、利用者様とご家族様が限られた時間を笑顔で楽しんで頂けるように工夫しました。ご利用者様が好きな向日葵の花を飾り、日常の様子が伺える写真を掲示し、手作りの百歳と書かれた特大ケーキ等用意しました。私はこのお祝い会の開催が不安でしたが職員で会場を作り上げていくうちに当日が凄く楽しみになりました。当日、何よりも百歳の今日までしっかりと笑顔で写っている写真を見てご家族様は安心されていました。ご利用者様と会うのは、コロナが流行してから数ヶ月ぶりの再会でした。お互いにボード越しで会話され、お祝いの言葉を交わされた時はとても感激しました。百歳と書かれた大きなケーキを口に頬張り嬉しそうに食べる姿は普段に感じられないほどの元気な姿でした。家族が帰る挨拶をすると涙する姿があり、娘たちへボード越しに「ありがとう」と呟いている姿は離れていても親子という絆を感じ私も職員も涙が込みあげてきました。

このような究極の立場に立ちながらチームで考え大切な日の思い出を作れたこと、そして百歳の記念日を通してご利用者様ご家族様と一緒に喜びを味わえたことに改めてこの仕事の生きがいと仕事の素晴らしさを感じることができました。これからも喜びや楽しさを与えられる介護職でありたいと思います。

松木　ユキ子（サンシャインつくば）
「105 歳差」

茨城県議会議長賞

介護と曾祖母と私

茗溪学園中学校　1年生
津久井（つくい）　海遥（みはる）

介護という言葉を聞いて、まっさきに思い出すのは曾祖母の「おおばあ」のことだ。おおばあは、足を骨折してから自宅で生活するのが難しくなり、施設で介護を受けながら暮らしている。

月に一回、母と二人で面会に行く。本当はいけないことだけれど、おおばあの好きだった甘いものをちょこっと差し入れに持って。甘いものが大好きなおおばあは、嬉しそうにほおばる。

最近は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接会っての面会はできない。その代わり、おおばあの施設では、「オンライン面会」ができる。十五分と時間は短いけれど、自分の顔がタブレットに映し出される様子を見て、おおばあは「芸能人みたいだねぇ」ととても喜んでいた。「九十三歳で遅咲きのデビューだね」と皆で大笑いした。

介護、という言葉を聞くと、一人ではうまく食事のできない人の手伝いや、おおばあのように、足が良くない人の移動の手伝いなど、ヘルパーさんのように、資格を持った人が、身体をサポートすることだと思っていた。もちろんそれが介護なのだろうけど、おおばあと会って一緒に笑ったり、楽しんだりして、心を寄り添わせることも、介護の一つであるのではないか、と思うようになった。それは誰でもできて、資格も必要ない。相手が、自分が何かをすることで喜んでくれれば、それも介護なのだ、と私は思う。

これからも、おおばあは年を重ねていき、もしかしたら私のことをうろ覚えになったり、まったくわからなくなったりするかもしれない。そんなときでも、心を寄り添わせることを大切に、私にできる介護をしていきたいと思う。

笹本　幸平（セ・シボンかしま）
「テレビ電話での再会♪」

茨城県議会議長賞

いつも救われていたのは

特別養護老人ホーム　愛和苑
小池（こいけ）　太市（たいち）

就職を控えた高校三年生の秋、訳あって自分を育ててくれた祖父母を相次いで亡くした。たくさん迷惑をかけ、これから恩返しをしようと思っていただけに、その別れは自分にとって大きなショックだった。それが介護士になろうと思ったきっかけだ。

何も分からず介護という世界に入り不安でいっぱいだったが、そこは想像と違いとても暖かな空間であり、家族と縁の薄かった自分にとっては、今までに感じたことのない初めての居場所のような感覚を覚えた。

仕事を始めた当初は、社会人となってのプレッシャーもあり、必死だった。大変なことや難しいことがたくさんあり、辛く思い悩んでいる時に、ある入居者様が入居されてきた。今でも不思議に思うが、出会った瞬間になぜか特別なものを感じた。「看護師をやっていたの」と当時を思い出しながら嬉しそうに話され、自分が手を差し出すと注射をする真似をしたり、自ら転んでしまった時も「迷惑かけてごめんね、ありがとう」と…、何よりいつも笑顔を絶やさない人だった。次第にその方は自分にとって、大きな存在になっていった。そして、どんなことがあってもこの人を看取るまで仕事を続けよう、そう決意した。

時は過ぎ、いよいよ大好きな入居者様との最期の別れがきた。呼吸が止まる寸前、自分が名前を呼ぶと、全く反応しなかった入居者様が、それまで結んでいた口を大きく開き、最後の呼吸をされそのまま安らかに眠られた。それはまるで、自分の呼びかけに最後の力を振り絞り応えてくれたかのように思えた。

最後の時に立ち会える機会は少ない。入居者様を最後まで見たいという自分の思いが、言葉にしなくても伝わった気がして涙が溢れた。その時気づいた。いつも笑顔で「ありがとう」と言って下さる、たった一言がとても暖かかった。介護という仕事は入居者様を助ける仕事と思っていたが、同時に自分も助けられていたのだ。入居者様が介護を始めたばかりの自分に、日々の生活を通して〝人を尊ぶ〟という大切なことを教えてくれた。それはこれからの自分の人生にとっても、かけがえのないものだ。

今では全ての入居者様が家族のような存在だ。これからも入居者様を家族と思い、健康と幸福、そして生きる喜びのお手伝いが出来るように、介護福祉士として頑張っていきたい。

金沢　里佳（ひぬま苑）
「やさしい時間に包まれて…」

茨城県老人福祉施設協議会長賞

姉なりの介護

小絹中学校　3年生
青柳　美慧

突然ですが、私の父方の祖母について説明します。彼女は五年前に夫に先立たれ、一人で家に住んでいます。とてもおしゃべりで行動力があり、全く知らない人にも元気で話しかけに行きます。なので、ご近所さんやスーパーの方とも仲良しです。しかし、コロナの影響で出かけることをひかえるようになっていました。

そうすると当然心配になります。一人で倒れてないだろうか。寂しい思いをしてないだろうか。

そんな話を食卓でした次の日。私の姉が昼間にスマホをいじっていました。

「何をしているの？」

「おばあちゃんに電話かけるのよ。生存確認。」

そのまま姉は2時間ほど祖母と話していました。しかもその後、母方の祖母とも一時間以上話していたんです。そしてその日から毎日どちらかと電話しています。

毎回毎回姉は祖母の長い、ささいな話をうなずきながら聞いています。何度か同じことを言ってもちゃんと返事をします。どうして姉はこんなにめんどうくさいことを続けられるのでしょう。さっぱりわかりませんでした。しかし、ある日祖母が姉に言っているのを聞きました。

「ありがとう。」

電話での会話は、姉なりの介護なんだな、と私は気づきました。祖母は大きな病気もなく、買い物も家事もできます。繰り返す祖母の毎日に楽しみを作り、心配を伝えることを、姉はしています。

介護とは肉体労働だけではありません。対象がしてほしいこと、やったら喜ぶことも含まれます。その中には必ず自分でもできることがあります。これを学んだ私は、今度から自分もおばあちゃんが嬉しがることを想像して挑戦しようと決めました。

杉山　真弓（希望の森）
「母からのお便り」

茨城県老人福祉施設協議会長賞

色鉛筆の空

「先輩、絵がうまいから似顔絵を担当してもらっていいですか？」後輩から頼まれて、わたしはデイサービスの夏祭りで似顔絵を描くことになった。正直、絵の腕前は大したことない。お金を取るわけじゃないし、おしゃべりしながら利用者さんの顔を描けばいっかーと気楽に引き受けた。

祭り当日、わたしは色鉛筆とマジック、紙を用意してデイホールに向かった。わたしに最初に声をかけてくれたのは桜子さん。確か八十代のきれいな方で、たまに助っ人で入るわたしを覚えていてくれた。わたしは色鉛筆を広げ、「どの色がお好きですか？」とたずねた。しばらく待ったが返事がない。「今日のお洋服と同じ、ピンクはお好きですか？」とたずねてみた。すると「そうねぇ、何でもいいのよ。特に好きな色なんてないわ」との返事。明確な答えこそ期待してなかったが、だからと言ってこれでは困る。「そうですか。淡い色とかお好きなのかと思いましたよ」と半ばやけくそで言ってみた。桜子さんは一瞬目を閉じ「そうねぇ、名前が桜子でしょ。だから子供の頃はいつもピンクばかり着せられてたの。わたしは青の方が好きだった気がするわ。今はもうどうでもいいのよ」なるほど！わたしは青い色鉛筆を全部、桜子さんの前に広げて「青といってもいろいろありますよ」と促した。今度はすぐ反応があった。「これは好きだわ。これも好き」桜子さんは2本の淡いブルーの色鉛筆を選んだ。「きれいな色ですね。じゃ描かせていただきますね」わたしは桜子さんの子供時代のあれこれを聞きながら似顔絵を描いた。洋服の色は桜子さんと話し合って淡いピンクにした。最後に絵の背景を2色のブルーでグラデーションにして出来上がり。桜子さんに絵を持ってもらって記念撮影した。「あらー随分若いこと。でもわたしによく似ているわ」

描かれた桜子さんは、春の空に凛と立つ、満開の桜のようだと思った。

特別養護老人ホーム もみじ館
小堀（こぼり）　幸子（ゆきこ）

植木　章太郎（笠間陽だまり館）
「令和初のお召し列車」

茨城県社会福祉協議会長賞

日本の介護を学んで

アール医療福祉専門学校　2年生
チャン ティー ホン ガー

こんにちは！私は遠い国から来て日本で介護福祉を学んでいます。私の国は「介護」という言葉と職業がまだ新しいと思います。私は日本で初めて「介護」という言葉の意味が正しく分かるようになりました。今年2年生になって学校での実習でも色々困った事がありますが、一番困った事は日本語だと思います。日本語学校で1年間勉強して介護のアルバイトも2年間していますが何でも分かって、何でも伝えられるわけではなく、分からない時も伝えられない時もありました。とてもつらかったです。実習先で「あなたは利用者様にもっと丁寧に尊敬語を使って話して利用者様は友達ではない」と言われた事もありました。「自分で頑張りましたが、まだ足りない」「どうすればいいかな」「何とかやっても外国人と日本人の目線がちがうかな」とよく考えました。時々アルバイト、学校、実習はむりで、辞めようかなと思った事もありました。でも利用者様がとても応援してくれました。

「今日学校はどう」「分からない事がある？あれば教えるよ」「お母さん、お父さんはどうですか」「今度何日来るの？待っているよ」「ご飯を食べて来たの？」とよく聞かれました。普通の話でも時々私の名前だけを覚えてくれて、とても嬉しくて感動しました。利用者様に握ってくれたり、抱きしめてくれたり、声をかけられたりする事がとてもはげみになりました。何か、その時つらい感じとか辞めようと思った事とかも消え、日本人と外国人の壁もないようになりました。外国人で文化や肌の色や言語などちがっていますが、心と笑顔でどの人でもつながると感じます。利用者様の気持ちを大切に考えられる心温かい介護福祉士になりたいと思います。

漆原　純子（あじさい苑）
「在りし日の風景」

茨城県社会福祉協議会長賞

介護について考えたこと

特別養護老人ホーム ドルフィン
インターサー
サオワラック

私はタイ人の介護技能実習生です。日本で1年4ヶ月くらい働いています。日本へ来る前に、タイで3年間くらい介護の仕事もしたことがあります。タイの介護方法と日本の介護方法は違うところがたくさんあります。例えば、タイでは移乗の時バスタオルは使いません。バスタオルを使って、2人で移乗すると利用者と職員どちらもらくに介護ができます。しかし、タイと日本で同じことがあります。それは利用者様を幸せにすることです。

多くの人から「なぜこの仕事をしますか」と尋ねられます。中学生の時、祖父と祖母が亡くなったので、この仕事をしました。祖父と祖母の世話をする機会が今はありませんが、利用者様の世話をするたび、祖父と祖母の世話をしたような気持ちになります。彼らが恋しいです。でも、利用者様の世話や話をしていると、いつも彼らは私のそばにいるようです。

もし自分の家族のように利用者様に面倒をみれば、全力で仕事ができると考えます。そして、利用者様の気持ちがよくわかります。家族の世話をすることは義務であっても、それは私は喜んで行います。

利用者様は皆、家族の愛と励ましが必要です。利用者様の身体を健康に保つことに加えて、精神面の世話もしなければなりません。特に特別養護老人ホームに連れて来られた利用者様は孤独に感じます。だから利用者様を大事にするし、散歩して雰囲気を変えるし、それで利用者様は気分が良くなります、寝たきり老人も精神面の世話をしなければなりません。体が動けなくても、すべてを理解できます。母は私に「心を大切にすると、双方で幸せです」と言いました。

疲れても、利用者様の笑顔を見るたびにうれしいです。将来タイへ帰ったら、介護の仕事をするかどうかわかりません。でも、この仕事で得た知識と経験を生かして、両親と伯父の世話をします。

道川　正人（元気館）
「見事な食べっぷり」

茨城県理学療法士会長賞

介護に関するエピソード

茗溪学園中学校　1年生
金沢（かなざわ）　つぼみ

私のおじいちゃんは、私が小さい頃に事故にあいました。はじめの頃はかなり状態が悪く、大変だったのですが今は元気に老人ホームで暮らしています。その当時の幸せなエピソードを紹介します。

事故に遭ってからもうかなり時間が経ったのですが、今でも覚えてるのはリハビリのときです。たまにお手伝いとして私も一緒にリハビリをしていたのですが義足を使ったリハビリや手先を器用に動かすキツいリハビリほど著しく回復していって補助がないとできていなかったことが簡単におじいちゃん一人でこなせるようになっていました。やっぱり、自分でできなかったことをこなせるようになったことがおじいちゃんはとても嬉しかったようなのですが、それと同様に手伝っていた私や、介護士さんもハッピーな気持ちになっていました。

このとき私は、介護を通しておじいちゃんとより仲良くなれた上に介護士さんなど協力してくれた人たちとも通じ合えたように思えました。介護は自立して生活できるように手助けをするだけでなく患者さんと心を通わせるためにもあるものなのだと思います。私は患者側の親族という立場ですがあのときの介護士さん側としても自分の力で一人の患者さんの人生を変えられて嬉しかったのだと今こうして振り返っていると思えてきます。ついこの間、おじいちゃんとオンラインで面会をしました。このご時世、面と向かっては会えなかったのですが久しぶりにおじいちゃんの顔が見れてとても嬉しかったです。おじいちゃんもとても嬉しそうで、笑顔で最近の話をしてくれました。私もリハビリを通しておじいちゃんに勇気を与えていたのかもしれないなと感じました。

最後に、介護を通して養ったおじいちゃんとのより深い絆や、達成感を忘れずに、これからもおじいちゃんの助けになっていきたいと思います。

新井 悦子（四季の郷）
「誕生会で感激」

茨城県理学療法士会長賞

「バトンタッチする日まで」

「ほ～む」訪問ヘルパー
吉田（よしだ） 幸子（さちこ）

「貴方はいつも面倒な事頼んでも嫌な顔しないでしてくれるから嬉しいよ。」とおばあちゃん「私こそ小さな事で喜んでもらえて嬉しいですよ。」と。ささやかな事で相手と気持ちが通じ合う時の一瞬です。老いと共に今まで出来ていた事も難しくなる。私は細かい針仕事は好きなので相手が思うほど苦にならない。

最初はヘルパーとして他人の家に入り不安と緊張で心に余裕もなく限られた仕事のみで時間が過ぎた。そして満足していた。利用者さんは独居の人が多く、ちょっとした気づかい、声かけも大事です。「お体は変わりないですか」と、声をかけると相手も自然と生々とした表情に変わる。そして笑顔も見えた。

私は茨城生れです。二十五年ぶりにUターンしてきた。土地勘もない、一番に在宅訪問ヘルパーの仕事を選び資格を取得した。

「一日目」同行家を覚えて先輩の仕事を見る。「二日目」先輩の前で自分一通りやる。「三日目」からは一人で実施する。中には仕事中、話しかけてずっと私から離れない人、仕事が終了して帰る時庭に出て見送ってくれる人、茶道の先生をしていたAさん、庭先の茶花を一緒に生けた、Aさんの顔はまるで別人のように生きた顔をしていた。この土地にきて大勢の人とめぐり逢い、私のほんの気づかいで相手からいっぱいの感謝の気持を感じる事ができた。そしてその人の長く生きた人生を伺う事も。ヘルパーは人にやってあげるだけの仕事ではない。相手からも一杯教えられる事が多い。その人と別れても今何げなく寄り添っている自分がいる。私の二人の娘も三十歳を過ぎて看護の道へ。下の娘はケアハウスで人と関わり頑張っている。二人には他人からの意見は人生の勉強だと思い困難にも乗り越えてほしい。今働く仲間に会えてよかった。大勢の人生の先輩にめぐり逢えてよかった。この仕事についてよかった。出会えた皆にありがとう。もう少し笑顔で利用者に会いに行ってきますね。私が娘たちにバトンタッチする日まで。

須賀　貴子（樅の木荘）
「いちご♡いちご」

茨城県介護福祉士会長賞

私と介護とその未来

茗溪学園中学校　1年生
中根（なかね）　咲希（さき）

人間は、必ず歳をとり、体が衰え、必然的に介護されることになります。私もそのうちの一人です。そこで私は今、そして未来で、介護されるときに不安に思っていることが二つあります。

一つ目は、最近介護士の減少が問題になっていることです。自分が介護されるようになる時はきっと介護士の方にお世話になると思います。そのため、自分が介護されるようになるときに介護してくれる人がいなくなるのでは、と不安になります。

二つ目は、今現在から猛スピードで高齢化が進んでいると言うことです。高齢化が進むともっともっと介護が必要な老人が増えてきます。すると、介護士の不足さらには介護施設の不足と言う問題が出てくると思います。このような問題がたくさん出てくると介護をしてもらえない老人が増え、自分もその中に入ってしまうのではないかと言う不安があります。

このような問題が進むにつれて今現在から未来にかけて、介護についての対策が必要になってくると思います。そこで私は「日常に介護の知識を取り入れる」という改善策を提示します。これは今問題になっている介護士の不足についての改善策です。介護士の減少すなわち介護の知識を持つ人の減少が今問題になっています。そのため学校などの授業に介護のことを取り入れたり、それ以外でも介護について触れることを多くしてみたりすることで、介護士ほど専門的知識がなくても必要なときに介護できるのではないかなと思います。

今、自分が介護されるときのことを考えるのはまだ早いかもしれません。だけど、だれもがいつかは介護される時が来ると思います。だから、これからも、自分が介護される時のことだけでなく、他の人が介護されるときの不安についてももっともっと考えていきたいなと思います。

菊池　千代美（ドルフィン）
「お互いコロナに負けずに頑張りましょう！」

茨城県介護福祉士会長賞

ウィズコロナを見据えた介護

ケアハウスみどりおか
四家（しけ）　慎一（しんいち）

その人らしい、元気に自由気儘な生活を目指せるのが、ケアハウスの魅力の一つ。食事と風呂準備の煩わしさから解放、健康維持と余暇活用に十分な時間が充てられる。家であり誰もが訪れ易い雰囲気と、自由に泊れる付加価値もある。住居の装いに関心があれば、自室は勿論、花壇の手入れや飾り付けの楽しみが持てる。困り事があれば職員の出番、相談に応え不安解消に繋がれば、職員にとっても嬉しく、時には元気づけられる事も多い。

今や、面会制限や外出自粛が求められ、職員は、消毒・うがい・ソーシャルディスタンス…等の声かけに駆けずり廻る事となった。コロナ対策は入居者の自由な生活スタイルを変えさせ、罹患予防と対応に重点を置かざるを得ない。施設では、不要不急の外出自粛を求めているが、健康維持の為の散歩は許可する。マスク着用であれば会話は制限しないが、食事中の会話はご遠慮頂く。買物は許可するが、短時間での買物を勧める。消毒、手洗い、うがいを習慣づける。感染防止のルールを守ってもらう事は大切だが、入居者との良い関係が保てる様に、柔軟な発想と行動で、守ってほしい事を示す事も大事だ。予防の仕事の比重は大きく、本来の仕事プラス入居者の不安解消にかかる仕事が増えた。職員が感染源にならない為に、感染リスク回避の行動は職員本人だけでなく、家族の行動自粛も求められ、そのプレッシャーとストレスは半端ではない。福祉施設の職員は、何度も心が折れそうになりながら、強い心とチームワークで乗り越えてきた。

ウィズコロナを見据え、今こそ福祉の原点『熱い心と冷たい頭を持て』である。一人一人が感染予防のルールを守り、必要以上に恐れない。時には肩の力を抜き、今できることに専念する。前の様な生活が再びできれば良いが、新しい日常を目指していくしかない。東日本大震災しかり、コロナも大変だったと言える日は必ず来る。夢と希望を諦めるな。

介護の魅力がぎゅ～っと詰まった！

Ibaraki Kaigo Fes 2020

2020年11月01日(SUN)
14:00 START　18:00 CLOSE
@ONLINE EVENT

毎年恒例の茨城介護フェスが今年はオンラインで開催！

トークテーマ：次世代介護専門職の心得

上条　百里奈
モデル
介護福祉士

木村　哲之
茨城県老人福祉施設協議会
会長

トークテーマ：福祉の壁の壊し方

田中　元子
株式会社グランドレベル
代表取締役

田中　伸弥
ライフの学校
理事長

オンライン表彰式

昨年度までオフラインで開催していた表彰式をオンラインにて実現！
ソーシャルディスタンスを保った表彰状の渡し方をお楽しみください。

オンライン ディスカッション

ご覧頂いている皆様もオンラインで参加できるワークショップです。場所を超えたコミュニケーションを楽しめます。

参加申し込み方法
下記QRコードまたはURLの申込サイトより必要事項をご入力下さい。
https://ibarakikaigofes2020.peatix.com/view

主催：一般社団法人茨城県老人福祉施設協議会/21世紀委員会
後援（予定）：茨城県/茨城県社会福祉協議会/茨城県理学療法士会/茨城県介護福祉士会
制作：NPO法人Ubdobe　　お問い合わせ先：info@ubdobe.jp

一般社団法人 **茨城県老人福祉施設協議会**（令和元年 10 月現在 会員事業所 1,125 事業所）
〒310-0851 水戸市千波町1918　県総合福祉会館３階
TEL　029（241）8529　　FAX　029（241）4456　http://www.jsibaraki.jp

茨城県社会福祉協議会（茨城県福祉人材センター）の取り組み

茨城県福祉人材センターは、県の指定を受けて設置された無料の職業紹介所です。
福祉の仕事（介護や保育など）に就きたい方と、福祉施設・事業所を結びます。
無資格・未経験でもご紹介できる仕事があります。福祉の仕事に興味のある方、ぜひご相談ください。

WEB で

「ふくしのお仕事」ホームページから
求職登録や、求人情報の検索ができます！
登録いただいた方には、希望にあった
求人情報をご提供。登録、利用は無料です。

「ふくしのお仕事」
で検索！

お電話で

お電話でも茨城県福祉人材センターに
ご相談いただけます。
・どんな求人が出ているのか教えてほしい
・仕事内容について聞きたい
そんな方はお電話ください。

求職登録を希望する方も、登録票を
郵送いたしますのでお電話ください。
（左記の HP からも求職登録できます）

【介護の資格を持っている方】

介護の資格の届出制度があります！

・2017 年 4 月 1 日から、介護福祉士をお持ちの方で、介護の仕事をしていない方は、都道府県の福祉人材センターに届出ることが努力義務となりました。
また、介護福祉士以外の介護の資格をお持ちの方も、届出ることができます。

【対象となる資格】 介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、
旧ホームヘルパー養成研修 1 級・2 級課程、旧介護職員基礎研修

・届出をした方には、福祉人材センターから福祉の仕事に関する事業やイベントのご案内をいたします。

○届出方法

・「ふくしのお仕事」ホームページから届出登録できます。郵送での登録を希望の方はお電話ください。

【悩みごとを誰かに相談したい方】

仕事とこころの相談があります！

・福祉の仕事をしたいと考えている方、福祉の仕事をしている方からの様々な悩みを受け付けています。
仕事をする上での不安や、悩みごとを相談してみませんか。
キャリアコンサルタント、産業カウンセラーの資格を持つ専門家がお話を伺います。

○開催日時

・毎月第 3 水曜日　16:00～19:00（おひとりあたりの相談時間は約 40 分間）／電話相談です。

○予約方法

・事前予約優先（空きがある場合は当日でも受付）。予約時間に、こちらからお電話いたします。
予約を希望する方は、茨城県福祉人材センターまでお電話ください。

【お問合わせ先】

茨城県福祉人材センター（社会福祉法人茨城県社会福祉協議会内）
TEL:029－244－4544　FAX:029－244－4543
〒310－8586　茨城県水戸市千波町 1918 番地　茨城県総合福祉会館 2 階
土日・祝日を除く 9:00～17:00

公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

★北茨城地域自立支援センター

●保健・医療・介護・福祉・教育・就労の連携推進をお手伝い
●理学療法士が在宅生活の構築に関する相談を受け付け
●北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

【相談事例】
●退院・退所後に自宅での自立した生活がしたい
●訪問リハビリテーションを受けたい
●職業性腰痛、介護方法等に関する勉強会の講師を頼みたい
●障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい

〒319-1559　茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
TEL：0293-44-3616

★筑西地域自立支援センター

〒308-0816
筑西市徳持 433-3（ザ・ヒロサワ・シティ内）
TEL：0296-47-0294

●相談支援事業所「ひなた」
（事業実施委託先：茨城県リハビリテーション専門職協会）
●無料職業紹介事業

★介護予防キャラバン

体力測定に基づく助言や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しておりません。

【令和元年度実績】
●「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
●「日本理学療法士協会全国一斉介護予防・健康増進キャンペーン　シルバーリハビリ体操フェスティバル事業」
●古河市「古河ふれあい広場2019」
●水戸市「健康づくりキャンペーン」（茨城県）
●ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」　など

★シルバーリハビリ体操の普及推進

茨城県では、茨城県立健康プラザや市町村の主催する講習会を修了した「シルバーリハビリ体操指導士」による住民主体の介護予防事業が広く行われています。日本理学療法士協会ならび茨城県理学療法士会では、誰もが気軽に取り組むことができ、介護予防と健康増進に高い効果が認められる「シルバーリハビリ体操指導士養成事業」の普及ならびに「シルバーリハビリ体操指導士」の皆様の活動を応援しています。

県内４４市町村と協働して上記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【お問い合わせ先】
公益社団法人　茨城県理学療法士会
〒310-0034　茨城県水戸市緑町3-5-35（茨城県保健衛生会館内）
TEL：029-353-8474　　FAX：029-353-8475
ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

Homepage　Facebook　Twitter

介護福祉士会
が
変わりました!

一般社団法人 **茨城県介護福祉士会**

事務局 ／ 〒310-0851茨城県水戸市千波町1918番地（茨城県総合福祉会館5階）

TEL：029-353-7244（月・木曜日のみ） FAX：029-353-7246 mail：ibaraki080ccw@topaz.ocn.ne.jp

茨城県

茨城県保健福祉部長寿福祉推進課
〒310-8555　水戸市笠原町 978-6　tel.029-301-3321

一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会
〒310-0851　水戸市千波町 1918　tel.029-241-8529

2020年12月発行